

西宮市立郷土資料館 兵庫県西宮市川添町15番26号 〒662-0944
電話 0798-33-1298 email nmc00065@nishi.or.jp web www.nishi.or.jp/~kyodo/

絵図の風景

指定文化財公開「国絵図の公開展」で考えたこと

西川卓志（当館館長）

1. はじめに

西暦2000年の本年、郷土資料館では所蔵する絵図を、夏季特別展で開陳する。近代的な測量図ではないが、時々要請を満たすかたちで描かれた絵図には、西宮各地の様子が視覚化されている。そこには、西宮の原風景がある。当館が保管するいくつかの絵図のなかに、「慶長十年摂津国絵図」（西宮市指定文化財）がある。種々の議論があるものの、江戸時代初期の摂津国を概観できる貴重な資料であることに変わりはない。表装したこともあって一辺約3mの大図になり、資料保存の問題も考慮すると、実物そのものの頻繁な熟覧は困難になった。当館職員も日常的に広げることは難しく、年に一回「文化の日」に、保存状態の確認とともに、一般公開を行っている。毎年、観覧者への説明かたがたこの絵図を見つめていると、いくつかのことに気づく。地図学（史）には門外漢ではあるが、郷土史にまつわる史料という観点から、気づいたことをまとめたい。

2. 国絵図の編纂

江戸時代前期、幕府は統治者として各種の重要な事業に、つぎつぎと着手した。地図編纂事業もそのひとつである。慶長9年（1604）には、国絵図と郷帳の作成を指示した。支配者としては、国土の基本図と国土土地台帳を完備することが急務だったのであろう。総奉行を西尾吉次と津田秀政、補佐役を牧長勝・犬塚忠次とし、慶長10年から12年にかけて完成している。幕府側では諸国大名に自国領土図を差し出させ、大名側では恭順の意を表すという、儀礼的な行事であったという意見もある。国絵図は江戸時代中に慶長・正保・元禄・天保期と4回作成され、その都度編集方針を幕府が指示し、改訂にかかったらしい。

慶長図においても簡潔ではあるが、作図上の留意点があった。図は国郡図として仕立て、村形の描法、村高、各郡の田畑数や村数の表示法、道や山川の着色法も指示があったようである。絵図・郷帳ともに3通作成された。この基本原則と現存する慶長期の図幅を比較して、描法が絵画的で樹木・岩などに墨絵的な技法が見られ、全体に絵画的な表現が強いというのが、研究者の方々がもたれる印象のようである。

3. 絵図の情報

本図記載の諸情報では、村名・石高を記した文字情報部分を八木哲浩氏が詳細に分析し公表されているものが研究の端緒で、近年では国絵図を総括的に取り上げられた川村博忠氏や、「図幅」としての研究では、礒永和貴氏の研究が、国絵図それぞれの比較を含めた精緻なものである。これらの成果から、本図がもつ情報の歴史性が明らかになった。一般的に、絵図に描きこまれた風景は近代的な測量の成果ではない。わずかな例外を除くと、個人の主観が絵になったにすぎないと、絵画部分の吟味はあまり行われてこなかった。近年、絵画史料の見直しがすすみ、描かれた絵の再吟味が盛んである。本図の山並みも、単に美しく描かれたものではなく、各地点それぞれでその場からの山容を写したものである可能性も、以前から指摘されていた。本図を詳細に吟味された礒永氏からも、山並みのみに限らず「図」そのものにも検討すると興味深い点がいくつかある旨、ご教授をいただいた。

年1回の公開時に西宮市とその周辺を注視していると、先述した大仰な国絵図制作の歴史的経緯とは別に、ささやかな郷土史にまつわる疑問が浮かぶ。ここでは、絵画として凝縮された情報をあてにしながら、それらについて述べてみたい。

4. 描かれる世界

国絵図南側には、ひろびろと広がる大阪湾が描かれる。煩雑な埋立地がないため、海岸線は素直で美しい。武庫川流末あたりでは永年の堆積作用の結果、砂堆が大きく南側へ拡大している。だが、本図では少し様子が違う。いまは武庫川本流末の東西が、左右対称に大規模に南側へ拡張しているが、この絵図では武庫川と枝川間の海岸線が南方へ突出して尖って描かれる。現武庫川本流末とおぼしき部分は後退して描かれ、現在の地図を見慣れている目にはやや奇異に映る。たんなる絵師の勘違いとしてしまうことも可能であるが、本図の性格から安易に、そう断定するのも軽率であろう。

まず、摂津国を描写した国絵図として知られる正保図と比較してみよう。正保期の摂津国絵図は正保元年(1644)、慶長図から約40年後に製作されたと考えられ、筆者も竹田市

立図書館蔵のものを実見したことがある。慶長図とはやや様相が異なるが、正保図も現在の武庫川本流末のように、砂堆部分が面的に大きく南へ拡大した風景ではない。尼崎市側を描いた部分では、尼崎城南側をあらう海岸線がそのまま大きく湾入している。この正保図から約100年後に描かれた「延享4年(1747) 尼崎領絵図」(岡本家文書)では武庫川・枝川流末は写實的に描かれるが、現尼崎市側に入り込んだ海岸線が程度の差はあるものの正保図と同様に描かれる。これら若干の絵図を通覧すると、慶長国絵図に描かれたように、武庫川流末の様子は今とはまったく異なっていたと考えざるをえない。16世紀代～17世紀にかけて武庫川の閉め切りが完了すると、それまで中流域で周囲に放出していた土砂を、河口まで押し流し始めた。みるみる河口の砂堆は広がり様子が変わっていく。さらに、この武庫川流末と枝川流末の間は、周知のように江戸時代に新田開発が盛んであった場所でもある。自然の堆積作用に新田開発という人為が加わって、江戸期には激しく風景が変化していった。『西宮市史』第2巻付図「武庫川下流の開拓地」や明治期の陸地測量部図をみると、江戸期以前の開発ラインは現海岸線より大きく後退していた可能性を考えると、その形状は慶長国絵図の海岸線と酷似する。今の目には奇異に映る国絵図の海岸線ではあるが、実はかなり古い時期の海岸線を忠実に表現しているのかもしれない。

いまひとつ、慶長図に描き込まれている情報で興味深いのが「樹木」である。先述の国絵図作成の経緯からはあまり必然性を感じない情報であるが、描き込まれているものがいくつか目に付く。松が断然多い。この状況は正保国図でも同じで、意図の有無はさておいて、図中の山間部や海岸部に樹影が散見される。由緒いわれのある古木の話はいまでも時折耳にするが、国絵図の中では阪神間が目立つ。別表(5ページ)は、江戸時代、いろいろな地域を紹介した図会物として特に著名な『撰津名所図会』(寛政10年 1798)から、西宮周辺の豊島郡・河辺郡・武庫郡・菟原郡・八部郡域で、特に注釈付きで掲げられた樹木の一覧である。社寺境内地の名木を除いてもかなりの数が知られていた。国絵図と名所図会編纂の時間差を考えても、かなりの名木が国絵図編纂当時にも知られていたであろうと、推測させる。すべての樹木が同じ性格とは限らないが、どういう理由で選択して記載されたものなのか興味が尽きない。撰津名所図会編纂時には残念ながら現物がなく伝承だけになっていた「鳴尾の孤松」については、井阪康二氏の卓見がある。鳴尾沖の沿岸潮流の大きな変換点の目印、航路標識的な性格があったのではないかとするものである。夜間の標識は、点灯する灯台や常夜灯でなければ役に立たないが、昼間陸地にそって航行する船にとっては、大型の樹木はよき目印になったはずである。江戸時代に活躍した大型船が就航

していない慶長期にあって、掲載の樹木にそれほどの役目があったかどうかはよくわからないが、摂津名所図会に名を連ねる名木のなかには、たんに伝承を今にとどめる縁というのではなく、かなり実用的な意味のあるものがあったのではないかと推測したくなる。

5. まとめ

毎年11月3日に実施している指定文化財公開展には、100人を越える見学者が訪れる。日頃展示できない「慶長国絵図」を展示し、随時質問に答えるために館員が立ち会う。展示資料としての絵図の威力はすごい。付属で2、3点の村絵図も展示しているが、とくだん詳細な解説がなくとも、観覧者はくいいるように絵図を見つめ、その場所からしばし動かない。お話を伺うと、見知った地名が見られるだけでも興味が倍増するという。描かれた町割りが今と変わらない場合は、さらに引き込まれる。頭のなかでは、ご自分の生活空間と描かれた歴史が理屈抜きで重なる。この点で絵図は展示資料の王者である。熱心な観覧者につられて絵図を見ていて気がついたことを、列挙してみた。村名や河川の場所も今とあまり変わらないため漫然と眺めていても、ただ美しいと思うだけであるが、やはり400年近くの時間が経っているのか、上述したように海岸線は随分変貌をとげているようである。当然のことではあるが、海岸線ひとつ取ってみても適当に引かれたものではないのは十分に承知しているが、収載されている絵情報の確実性にやや驚かされた。また、選択的に描かれた樹木の掲載の理由とその役割については興味の尽きないところであるが、今回は結論を得るには至らなかった。また、本年も絵図を見ながら考えてみたい。慶長国絵図には、描き込まれていてまだ気づかれていない情報があるのかもしれない。本年もまた展示する。皆様、いちどご観覧下さい。

〈補記〉なお、この慶長国絵図は平成12年3月に兵庫県指定重要文化財に指定されました。

参考文献

八木哲浩 「慶長十年摂津国絵図」『地域史研究』第10巻1号 昭和55年12月25日

磯永和貴 「西宮市立郷土資料館蔵「慶長十年摂津国絵図」の描写内容と表現様式」『人文地理』第48巻第6号 1996.12.28

川村博忠 『国絵図』日本歴史叢書(44) 平成2年12月1日

井阪康二 「鳴尾の一本松とエビス神の伝説について」『西宮市立郷土資料館ニュース』第16・17・18号 1995

摂津名所図会所収の樹木 (豊島・河辺・武庫・菟原・八部各郡)

郡	名称	よみ
豊島郡	三鈷松	さんこのまつ
豊島郡	絹繁松	きぬかけのまつ
豊島郡	兼好松	けんこうまつ
河辺郡	猪名小笹	いなのおざさ
河辺郡	浮光坊紅葉	ふこうぼうもみじ
河辺郡	藤	ふじ
河辺郡	昔松	むかしまつ
河辺郡	尼崎屋松	あまがさきやまつ
河辺郡	古梅	こばい
武庫郡	岡本梅花見園	おかもとうめはなみのず
武庫郡	鳴尾一ツ松	なるおひとつまつ
武庫郡	角松原	つぬのまつばら
菟原郡	踊松	おどりのまつ
菟原郡	潮見松	しおみのまつ
菟原郡	兼手松	かねてのまつ
菟原郡	長尾松	ながおまつ
菟原郡	御影社	みかげのもり
菟原郡	余波松	なごりのまつ
菟原郡	法然松	ほうねんまつ
菟原郡	熊内牡丹	くもちのぼたん
八部郡	巖梅	えびらのうめ
八部郡	敦盛菘	あつもりのはぎ
八部郡	和田笠松	わだのかさまつ
八部郡	影向松	ようごうのまつ
八部郡	匂梅	においのうめ
八部郡	源氏松	げんじまつ
八部郡	菅神飛松	かんじんとびまつ
八部郡	駒留松	こまどめのまつ
八部郡	衣かけ松	きぬかけのまつ
八部郡	磯馴松	そなれまつ
八部郡	月見松	つきみのまつ
八部郡	草賊松	ぬすびとまつ
八部郡	因幡遠山松	いなばとおやまつ
八部郡	鐘懸松	かねかけのまつ
八部郡	重衝松	しげひらまつ
八部郡	嫩木桜	わかきのさくら

*単独の樹木を中心にし、樹林を形成しているものは省きました。

(2000年3月9日)

寄贈資料一覧 (平成10年4月～平成12年3月、敬称略)

民俗資料4点 (井上香)、戦時生活資料19点 (黒川イク)、民俗資料507点 (吉川艶子)、民俗資料12点 (栗崎力太郎)、戦時生活資料1点 (大森晶子)、民俗資料801点 (上田順男)、民俗資料1点 (谷野武信)、民俗資料2点 (白鹿記念酒造博物館)、民俗資料11点 (北綾野)、民俗資料15点 (小西マス子)、戦時生活資料83点 (中井励作)、戦時生活資料12点 (福田信行)、民俗資料3点 (中村参治)、教育史資料53点 (池谷正美)、民俗資料・教育史資料196点 (南波荘八)、民俗資料1点 (塚本邦夫)、民俗資料17点 (吉井みつ子)

パーソナルコンピュータの導入と、LAN・インターネット利用にいたる経過

合田茂伸（当館学芸員）

1999年4月、西宮市立郷土資料館では、インターネット上に「西宮市立郷土資料館 on The Web」というサイトを開設した。URLは <http://www.nishi.or.jp/~kyodo/> である。サイトは、展示室、収蔵庫、書庫、文化財、トピックスなどからなっていて、順次内容を増強している。ところで、ウェブサイトの開設は館内情報のデジタル＝アーカイブ化が前提となることは、ここであらためてのべるまでもない。そこで、インターネット上にレビューしたことを機会に、おぼえとして当館の情報デジタル化の経過をここにまとめておくことにする。デジタル化では後発といえる地方の小規模館の実例として小文をおよみいただければさいわいである。

当館は、1985年7月に開館した。開館時、教育委員会教育資料室、同文化課などで個別に収集された教育史、民具その他の資料約30000点を収蔵し、中学生以上を仮想観覧者として、西宮地方の通史を展示する常設展をもうけ、1年1度の大規模とはいえない特別展、講演会、それぞれことなる年齢層をターゲットにした何種類かの講座などを開催してきた博物館類似施設である。開館当時には、コンピュータは1台もなく、1986年、最初の特別展のラベル作製のために職員がもちこんだパーソナルワープロ（NEC 文豪ミニ7）が唯一であった。のち、ワープロは備品として購入されたが芸術文化担当係との共用であった。このワープロは、あまりつかわれることはなかった。その後1989年、同係が顧客管理用としてラップトップパソコン（東芝 J-3100GX、MS-DOS3.1）をリース導入し、共用、当館ではもっぱら顧客管理とワープロとして使用していた。同年、学芸員2名はノートパソコンを購入し自分のデスク上で使用をはじめている。共用機との互換性を確保するために、J-3100シリーズであった。ただ、当時、共用機が他の業務係との共用であり、個々人がそれぞれパソコンを使用していたため、データの共有や、ネットワーク化はまったく考慮の外であって、フロッピーディスクをやりとりする程度のデータ交換であった。1994年リースぎれにともない新機種を導入したが、当時、文書収集担当が併設され、この担当がほぼ専用する形での使用を前提に器種を選定することになった。それまでのワープロファイル（ジャストシステム社 一太郎）、顧客データベース（以下D.B.）（ロータス社 123）の互換

性確保や、当時パソコンの標準となりはじめた DOS/V 機に使用でき、各地の文書館や博物館で実績のある D.B.ソフト（管理工学社 桐）を古文書整理に使用することなどの条件から、やはり東芝製のデスクトップ機（PV-486DX、日英 MS-DOS5.0、MS-Windows3.1）の選定となった。この時点でも、この古文書の D.B.はパソコン上で作成されていたが、分類検索項目の標準化がなしえず、ファイルが家ごとに分割されるなど、完全なデジタル D.B.には、ならなかった。1995年、兵庫県南部地震後の文化財保護業務にノートパソコン内の簡単な文化財 D.B.が、データ処理、問い合わせへの回答などに威力を発揮した。1998年、学芸員のノートパソコン 2 台は、価格が下がり DOS ディスクとのデータ互換性をたかめた Apple 社製の一体型デスクトップ機（Performa シリーズ）にいかわり、相互のデータと 1 台のプリンタを共有するネットワークを構築した。そのころすでに西宮市情報センターではパソコン通信「情報倉庫にしのみや」を開設し、無料のネットワークとしてすでに4000人程度の会員を有していた。郷土資料館名での ID の発行をうけ、専用ボードを開設してもらってそこに館情報の発信をはじめた。ただ、このボードへのかきこみは、学芸員の自宅のパソコンからの接続によるもので、組織として器機を準備できたわけではなかった。ついで、西宮市情報センターでは、ウェブサイトを開設し、西宮市の様々な情報をそこで提供しはじめた。同センターとの情報交換のなかで、同サイト上に郷土資料館ページ開設が可能であることがわかり、同サイトの大幅改装を機に、1998年7月、資料館トップページと行事予定表を掲載しただけの暫定版ウェブサイトを公開した。このときには、学芸員のパソコン上で作製した html ファイルをフロッピーディスクによってはこんだ。そのころ、館の収蔵資料目録第二冊（民俗資料）の原稿作成にあたり、以後デジタル D.B.として活用することを前提として、パソコン上に、すでにあるペーパー資料カードの移植（クラリス社ファイルメーカープロ）をおこなった。パソコンは、学芸員がもちこんだ Apple 社製の中古機（LC630-OS7.6）である。この DB 構築は、実際に移植をおこなった民俗学担当非常勤学芸員に非常に好評で、かつ、他のパソコン 2 台とネットワーク化して、3 台のパソコンでファイルを共有する有用性、利便性を館員に認識させた点で、画期的であったといえる。1999年3月リース切れによってパソコンの新機種導入にあたり、DOS/V-Windows98ベースのマシンにするか、Apple 社 Macintosh にするかで、議論があった。西宮市役所が全庁 DOS/V-Windows（日立社）化してゆく途上にあったため、それらの導入も視野にいれたが、1. ネットワークの管理が容易であること、2. 学芸員が操作になれていること、の2つの理由から、Macintosh 機を導入することにした。導入を

機に、館内にイーサネットワークを配線し、学芸員作業室、事務室、会議室（集會行事をおこなう）、展示室の4箇所に端子をもうけた。リース機をサーバとして、D.B.はじめ、学芸員が業務上で作製する文書すべてをこれに蓄積し、館員全員でこれを利用することにした。パソコンは現在5台が相互に接続され、2台のプリンタを共有している。また、情報センターとプロバイダ委託契約をむすび、ダイヤルアップルータを導入、1999年4月、西宮市立郷土資料館 on The Web として、正式にウェブサイトを開設した。(1999年12月27日)

平成12年度行事のおしらせ

西宮市立郷土資料館では、平成12年度に次のような行事を予定しています。

展覧会

特別展「西宮古地図大観」 8月5日(土)～9月10日(日)

同展関連ミニシンポジウム「慶長十年撰津国絵図をめぐって」9月3日(日)(往復はがきでの申し込みが必要です。電話でお問い合わせください)

企画陳列「史料で20世紀を回顧する」7月4日(火)～7月23日(日)

企画陳列「民具で20世紀を回顧する」1月9日(火)～3月25日(日)

戦時活資料展 8月8日(火)～8月20日(日)

歴史ハイキング

「大山崎の文化財をめぐる」5月14日(日)阪急「大山崎」午前10時集合・申し込み不要

そのほか、歴史講座、親と子の郷土史講座などを予定しています。おさそい合わせのうへ、ご参加ください。くわしくは、西宮市立郷土資料館（電話番号0798-33-1298、email=NMC00065@nishi.or.jp）まで、お問い合わせください。インターネットでもくわしい情報をご覧になることができます（URL=<http://www.nishi.or.jp/~kyodo>）。

目次 CONTENTS

絵図の風景～指定文化財公開「国絵図の公開展」で考えたこと～（西川卓志）…1

寄贈資料一覧…5

パーソナルコンピュータの導入と、LAN・インターネット利用にいたる経過（合田茂伸）…6

西宮市立郷土資料館ニュース第25号 2000年3月31日発行